

2010 年 11月 5日

会員各位

日本農業経済学会
会長 本間 正義

2011 年度日本農業経済学会大会のお知らせ

謹啓、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、2011 年度の日本農業経済学会大会を下記の要領にて開催致します。多数の皆様のご参加をお願い申し上げます。なお、会員の皆様におかれましては、要旨集印刷部数や懇親会の準備等、大会運営上の諸事情をご理解の上、同封はがきの「大会参加及び個別報告意向調査」にご予定等を記載いただき、2010 年12 月8 日(水)までに、学会事務局((財)農林統計協会・日本農業経済学会事務局、以下同様。)宛にご返送下さるようお願い申し上げます。

今大会は、一日目に例年と同様にシンポジウムが開催されますことに加えて、二日目に、個別報告や特別セッションと併せて、日韓シンポジウムも開催されます。

「特別セッション」につきましては、科学研究費等によってグループで共通テーマの下に研究を進めているものについてその研究成果を公表したい場合、等でこのセッションを活用してください。会員からの発案による特別セッションとして、多数の応募があることを期待しております。発表の成果を、業績として仕上げるため学会の論文集へ投稿したい、という意向がある場合には、それにも応えるよう手続き上の配慮もしております。

口頭及びポスターによる個別報告、特別セッションの申込み手続きにつきましては、会員の皆様は、各自で会員資格をご確認の上、学会ホームページに掲載されております申込み要項をご覧になって、個別口頭報告及び個別ポスター報告は12 月20 日(月)、特別セッションは、1 月7 日(金)までに、原稿等の必要書類を揃えて学会事務局まで電子メールで送信または郵送願います。なお、「個別報告申込み要項」、「同 発表要領」などの郵送を希望される方は、事務局にメール等で申込みされれば、直ぐにホームページ記載のものと同様の要項等を郵送致します。

[1] 日程及び会場

日程: 2011 年3 月27 日(日)、28日(月)

会場: 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学早稲田キャンパス

3月27 日 国際会議場(井深大記念ホール)

3月28 日 14号館共通教室及び国際会議場(井深大記念ホール)

<大会受付>

3 月27 日 国際会議場(井深大記念ホール) 1 階ロビー

3 月28 日 14号館 1 階ロビー

<大会>

3 月27 日 早稲田キャンパス 国際会議場(井深大記念ホール)

| | | |
|-----------------------|--|---------------|
| 開催校挨拶 | | 9:30 ~ 9:35 |
| 学会長挨拶 本間 正義 | | 9:35 ~ 9:50 |
| シンポジウム「現代日本農業のベースライン」 | | 9:50 ~ 17:30 |
| 総会・学会賞表彰・学会賞受賞講演 | | 13:30 ~ 14:30 |
| 懇親会 国際会議場3階 第2会議室 | | 18:00 ~ 20:00 |

| | | |
|--------------------------------------|------------------|---------------|
| 3月28日 早稲田キャンパス 14号館及び国際会議場(井深大記念ホール) | | |
| 個別口頭報告 | 14号館共通教室 | 9:00 ~ 未定 |
| 特別セッション | 同上 | 9:00 ~ 未定 |
| 個別ポスター報告(ショートスピーチと審査) | | |
| | 国際会議場第1,第2,第3会議場 | 9:30 ~ 11:00 |
| | (一般会員閲覧者への対応) 同上 | 12:00 ~ 13:00 |
| ポスター賞授与式 | 同上 | 16:45 ~ 17:00 |
| 日韓シンポジウム | 14号館(101教室予定) | 14:30 ~ 16:45 |

< 諸会議 >

3月26日

| | | |
|--------|--------------------|---------------|
| 正副会長会議 | 早稲田大学国際会議場共同研究室(1) | 17:00 ~ 18:00 |
| 理事会 | 早稲田大学3号館政経第1会議室 | 18:00 ~ 20:00 |

3月28日

| | | |
|--------------|---------------------|---------------|
| 農業経済学関連学会協議会 | | |
| | 早稲田大学国際会議場・共同研究室(6) | 17:30 ~ 19:30 |

[2] 参加費(原則事前振込)

1. 大会参加費: 3,000 円
2. 懇親会費 : 6,000 円 (学生会員:3,000円)

[3] 大会参加費・懇親会費の支払いについて

大会参加費(3,000 円)及び懇親会費(6,000円)については、開催校の要望により当日受付で現金の徴収が難しいことから、原則として事前振込に変更になります。大会当日、振込の半券等を受付係に提示し受付を行い、大会資料をお受け取りいただくことを予定しています(開催校の要望をご理解の上、ご協力をお願い致します)。

このため振込の半券等は大切に保管して下さい。なお、受付に3月15日までの振込者リストを用意し、対応致しますが、それ以降振込の場合、確認が半券等のみになりますので特に重要です。

振込口座は以下の通りです。いずれも口座名は「日本農業経済学会」です。大会前日までに余裕を持ってお振込み頂き、必ず振込半券等をご持参ください。

郵便振替 00100 - 5 - 0740773

銀行 りそな銀行 目黒駅前支店 普通預金 1880072

なお、どうしても事前振込が出来ない場合、半券を忘れたり無くしたりして提示出来ない場合、さらに振込後参加出来なくなった場合などの対応については、巻末記載の学会事務局へご相談下さい。大会当日は、受付あるいは事務局（武石）までご相談下さい。

[4] 大会に関する問い合わせ

日本農業経済学会事務局（財団法人 農林統計協会内）

担当：（学会全般）武石、（入会・会員番号等）藤本

電話：03-3492-2988 ファックス：03-3492-2942

学会のメールアドレス：aesj@aafs.or.jp

学会ホームページ：<http://www.aesjapan.or.jp>

（参考）「2011 年度日本農業経済学会早稲田大会実行委員会」

大会実行委員長：堀口 健治 大会実行委員会事務局長：柏 雅之

早稲田大学政治経済学術院 堀口研究室秘書・星野美弥子

電話：03-5286-1219

m.hoshino@kurenai.waseda.jp

[5] シンポジウム(3月27日)

1. 全体テーマ「現代日本農業のベースライン」

座長 小田切 徳美（明治大学農学部）

中嶋 康博（東京大学大学院農学生命科学研究科）

報告

1. 農業構造改革の類型論的検討

野田 公夫（京都大学大学院農学研究科）

2. 食料消費の現代的課題 - 家計と農業の連携可能性を探る -

草苺 仁（神戸大学大学院農学研究科）

3. 現代農政システムの制約要因と展望

荘林 幹太郎（学習院女子大学国際文化交流学部）

4. わが国農業構造の到達点と展望 - 水稲・畜産・野菜の比較検討を通して -

福田 晋（九州大学大学院農学研究院）

コメンテーター 3名（調整中）

2. シンポジウムのテーマについて

近年、学会シンポジウムの中では、政策を意識したテーマ設定が頻繁に行われてきた。激しく変化する国内外条件の下で、またそれに対応する施策の大きな転換の中で、特定分野の政策を科学的な根拠に基づき議論し、評価することは、農業経済学会のひとつの社会的任務と言えよう。

しかし他方で、その変化があまりにも激しい時には、政策変化を後追いし、それを直接に評価する

ことに、1年に1回の学会シンポジウムの比較優位性を発揮できない場合も考えられる。2009年の政権交代前後から今に至る連続する政策転換過程は、このケースに当てはまるように思われる。

そうした状況の中で、学会シンポジウムのもうひとつの社会的役割として期待されることは、学会の場でしかできないような中長期的タイムスパンの議論である。その点で示唆的なのは、1999年の食料・農業・農村基本法が制定された直後の2つの大会シンポである。当時の約40年ぶりの基本法制定という歴史的インパクトにもかかわらず、2000年大会（宇佐美繁座長）では「21世紀日本農業の進路」をテーマとして、「グローバリズムの終焉」「世紀的転形期」等が議論されている。また、その翌年のシンポジウムでも基調は受け継がれ、「国際社会を生きる日本の農業」（生源寺眞一座長）という共通テーマで、日本農業の「固有の要素と普遍性」（同シンポジウム副題）が検討され、印象深い議論が展開された。

こうした先行するチャレンジから学びつつ、本年のシンポジウムでは、日本農業の基礎的な条件を明らかにする課題設定を行いたい。そこでは、「戸別所得補償制度」「六次産業化促進」等の現下の農政のあれこれは、直接には課題とはならない。

テーマは「現代日本農業のベースライン」とした。シンポジウム・タイトルとしては馴染みのある表現ではないが、わが国固有の風土などの静態要因と近年の社会・経済変化などの動態要因に規定される、これからの食料・農業・農村の姿を「ベースライン」として把握することに努めることを意図している。

報告は3つのブロックからなる。第1に、日本農業の固有の要素をヨーロッパ等との対比で、類型論的に明らかにするブロックである。第2に、日本農業をめぐる社会と経済の諸条件の動態過程を解明し、その日本農業への影響を考えるブロックである。そして、第3に、その結果としての現在の日本農業の到達点と展望を解明するブロックである。

第1のブロックについては、古くは先行研究があるが、最近ではまとまった議論は少ない。この間の研究の進捗を踏まえた日本農業・農村の固有の要素が、第1報告において、新たに提起される。第2のブロックについて、様々な分析要素が考えられるが、今までの学会シンポでは必ずしも十分に扱われなかった、消費サイドの分析、行政システムの分析を取り上げる。そこで第2報告では、現代の食料消費が社会の枠組みづくりと運営をどのように左右する可能性があるのか考察される。また、第3報告では、政策の展開のベースとなる行政システム、たとえば長期にわたる地方分権改革の農政基盤への影響が考察される。また、第3のブロックにかかわっては、多くの研究成果があるが、特に作目間比較という視点を取り入れることにより、第4報告では今日の農業構造の到達点をいままでとは別の角度から考察することとなる。

以上の報告を素材に「現代日本農業のベースライン」を明らかにしつつ、このベースラインを参照尺度に利用しながら目指すべき農業のビジョンやその実現のために必要とされる政策のあり方を吟味していくこととしたい。

以上のシンポジウム報告はいずれも現時点の仮題である。今後、調整が進むコメンテーターも含めて、最終的なシンポジウムの構成は学会ホームページ等でお知らせしたい。

[6] 日韓シンポジウム(3月28日)

テーマ：「日韓農業構造問題の現段階」

座長：深川 博史（九州大学大学院経済学研究院）

[7] 個別報告

1. 個別報告は「口頭報告」と「ポスター報告」に分けられますが、両方に同じ発表テーマや内容で申し込むことはできません。また、異なる内容であっても、口頭報告、ポスター報告で筆頭者となるものは、それぞれ一人一報告に制限することとしています。申込みについては、以下の手順に従って、学会のホームページからプリントアウトした書類に必要な事項を記入して、期限までに学会事務局へお送り下さい。

2. 「報告者等の会員要件」については、「個別報告」の場合、少なくとも1名は申込みの段階で本学会員でなければなりません。連名で報告される場合は、全員が会員である必要はありませんが、全員が会員でない場合、少なくとも1名は、個別報告の申込み前に学会ホームページ（<http://www.aesjapan.or.jp/>）の「入会申請フォーム」を用いて入会を済ませておいて下さい。

ただし、個別報告終了後の『日本農業経済学会論文集』（『農業経済研究』別冊、以下『学会論文集』と略称する）への投稿は、筆頭著者が会員であることが必要です。このため、後に論文集投稿を予定している場合には、実際の論文集の審査が個別報告の際の評価と連携させつつ進められることを勘案すれば、個別報告時点から、「少なくとも1名」と言った場合、筆頭報告者自身が会員となっておくことが望ましいでしょう。なお、個別報告と論文集投稿で筆頭者を替えることは、上記と同様の理由から避けてください。

報告申請書の所定欄には、個別報告者の中で会員である方を代表として、その会員番号を記入いただく必要があります。会員番号は、会員名簿に記されていますが、もし不明な場合は、学会事務局に照会して下さい。報告申請書の所定欄には、個別報告者の中で会員である方を代表として、その会員番号を記入いただく必要があります。会員番号は、会員名簿に記されていますが、もし不明な場合は、学会事務局に照会して下さい。

3. 「個別報告」の申込みの際には口頭報告、ポスター報告ともに、学会ホームページ掲載の「2011年度大会 個別報告申込み要項・発表要領」に基づいて、12月20日（月）までに、以下のよう
な3点の書類等を作成の上、電子メール又は郵送で提出する必要があります。

報告申請票

報告要旨

報告論文（学会論文集の規程にそって作成されたもの）

なお、「報告論文」の作成方法は、学会ホームページ掲載の「日本農業経済学会論文集投稿規定」あるいは「2010年会員名簿」末尾掲載の「投稿規程」に準ずるものとします。

4. 「口頭報告」は、3に定める提出物に不備があった場合、企画委員会による判断で報告をお断りする場合があります。また、企画委員会が口頭報告からポスター報告へ変更(もしくはその逆の)を依頼することがあります。

例年、申し込み段階では分析途上で結論が得られていないものについて、「予告編」のような形で、論文や要旨を提出される方が散見されます。これについては、以前から、申し込み段階で論文として完成していることが要件となっており、本来そのようなものは個別報告として受け付ける要件を満たしておりません。本年は、これを厳格に審査し、結論の書かれていない論文は形式的に不備なものとして受け付けないこととしますので、この点に十分ご注意ください。

5. 個別報告の報告時間は、口頭報告は25分、ポスター報告は10分を予定しています。ただし、報告数によって変更する可能性があります。

口頭報告でプロジェクターを用いる場合のプレゼンテーション用ファイルは、“PDFファイル”に限定します。なお、ファイルの提出先・提出方法が、今回変わります。具体的には、事前に（3月18日（金）まで）に電子メール（あるいはUSB等での郵送も可能）で、学会事務局（財団法人 農林統計協会）へ送付して下さい。なお、一度提出したファイルの差し換えは原則として認められませんので、提出の際、十分推敲下さい。

6. ポスター（プレゼン用）の作成については、詳細は、学会ホームページの「個別ポスター報告申込み要項」の別紙2「ポスター作成要領」に基づいて下さい。なお、ポスターのサイズはA0（ゼロ）判を厳守して下さい。ただし、数枚を張り合わせたものでも構いません。

7. 「ポスター報告」は、プログラムで指定された時間に行う報告（10分間（7分間のプレゼンテーション＋3分間の質疑応答））に加えて、昼休みの閲覧者への説明・議論、を適切に行うことが義務づけられています。この両方を適切に行った事を企画委員会が確認できた場合、ポスター報告を行ったものとします。

なお、ポスター報告を行ったとされた場合、ポスターの報告論文を（口頭報告と同じ条件で）『学会論文集』へ投稿することが可能となります。

また、ポスター報告については、ポスターの内容と当日のショートスピーチを審査の上、「ポスター賞」を授与します。

8. 「個別報告申込み要項・発表要領」等は、学会ホームページへ11月1日に掲載しています。なお、同要項・要領の郵送を希望される方は、下記の本学会事務局（財団法人農林統計協会）へハガキ又は電子メールで「申込み要項、発表要領等の郵送希望」と書いて送付先を明記し申込み下さればお送りします。

9. 口頭報告終了後には、口頭報告及びポスター報告、どちらも「学会論文集」へ投稿できます。「学会論文集」への掲載審査に当たっては両報告を区別することはありません。なお、掲載が受理された場合には、所定の論文掲載料を「学会論文集」発行前に納入していただく必要があります。

[8] 特別セッション

1. 「特別セッション」は、大枠の共通テーマの下で、グループ内の誰かが座長になり、2~4の研究報告を行い、グループ内での討論とともに、会場参加者との質疑も行う研究発表の場です。

報告者及びコメンテーターの数、時間配分等は企画提案者に任されますが、全体時間としては、概ね1.5~3.0時間程度に収めてください。科研費等によってグループで共通テーマの下に研究を進めているものについてその研究の成果を公表したい場合、等でのセッションを活用してください。時間帯につきましては、極力多くの会員が参加できるよう配慮致しますが、プログラムの編成、大会運営上、個別報告等との同時並行的開催とならざるを得ないことが多いので、予めご承知置きください。

2. 特別セッションの内容をもとに論文集への投稿を希望される場合には、投稿予定者が原稿提出段階から一般の個別報告（口頭報告及びポスター報告）と同様の手続きを取った上で、学会事務局（＝企画委員会）に申し出て下さい。執筆要領およびその他の手続きにつきましても、一般の個別報告による投稿論文と同様の扱いといたしますので、個別報告の投稿に関する要領ならびに留意事項についてもご確認下さい。

3. 「特別セッション」の会員要件については、企画提案者は、本学会員であることが必要ですが、セッションでの報告者、コメンテーター等については、制約はありません。

4. 「特別セッション」での報告を希望されるグループは、

- ①代表者および座長のお名前
- ②全体テーマ及びセッションの趣旨、セッションの全体内容が把握できる説明
- ③報告者名・コメンテーター名、その所属、報告テーマ
- ④希望所要時間

をまとめて平成23年1月7日（金）までに、電子メール又は郵便で学会事務局宛提出する必要があります。ただし、会場数の制約のため、先着順と致します。現在、全体で4会場を想定しております。

なお、上記のうち、 、 は、そのまま大会報告要旨の原稿とします。字数等の様式の厳格な指定はしませんが、前年度「大会要旨集」の例を参考として1ページに収まる範囲で作成してください。

また、希望所要時間については、1.5~3.0時間の目安に収まるものであれば極力希望を尊重しますが、大会全体運営とプログラム編成上、時間の短縮等をお願いすることがありますので、予めご承知置きください。

5. 「特別セッション」でプロジェクターを用いる場合のプレゼンテーション用ファイルは、“PDFファイル”に限定します。なお、ファイルの提出先・提出方法が、今回変わります。具体的には、事前に（3月18日（金）まで）に電子メール（あるいはUSB等での郵送も可能）で、学会事務局（財団法人 農林統計協会）へ送付して下さい。なお、一度提出したファイルの差し換えは原則として認められませんので、提出の際、十分推敲下さい。

[9] 今後のスケジュール

今後のスケジュールは次のようになります。あくまで暫定的なものです。これまでの手続きと異なる点がいくつかありますので、十分に確認して下さい。

昨年からの重要な変更として、個別報告（口頭報告・ポスター報告）の申し込み期限を早め、例年の12月末から今回は12月20日（月）となっています。また、今回は、プレゼンテーション用ファイル（pdfのみ）の提出先・提出方法が変わります。どちらも十分注意して下さい。

注：提出先は全てのものが下記の学会事務局になりますのでご注意下さい。

《今後の主な日程》

個別報告「口頭報告」の申込み締切り（報告申請票、報告要旨、大会論文集の規程にそって作成された報告論文の提出（電子メール又は郵送）：12月20日（月）17：00

個別報告「ポスター報告」の申込み締切り（報告申請票、報告要旨、大会論文集の規程にそって作成された報告論文の提出（電子メール又は郵送）：12月20日（月）17：00

「特別セッション」の申込み締切り（電子メール又は郵送）：1月7日（金）17：00

個別報告「口頭報告」の座長決定（2月中旬）

学会事務局（農林統計協会）から座長予定者へ審査関係書類の送付（2月中旬）。

プレゼンテーション用PDFファイルの事務局への提出期限（電子メール、郵送）：3月18日（金）

大会参加費及び懇親会費の事前振込み・大会前日まで

「口頭報告」「ポスター報告」「特別セッション」：大会2日目、3月28日

《 学会事務局 》

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3 - 9 - 13 目黒・炭やビル

財団法人農林統計協会内

日本農業経済学会事務局

担当（学会全般）武石、（入会・会員番号等）藤本

電話：03 - 3492 - 2988

電話（大会会場受付）武石携帯：080 - 1091 - 8502

FAX：03 - 3492 - 2942

学会のメールアドレス：aesj@aafs.or.jp

学会のホームページ：<http://www.aesjapan.or.jp>